

滋賀県の地震

平成30年(2018年)1月

目次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	3
(2)概況	-----	3

3 地震一口メモ

地震に関する観測・解析データの掲載について	-----	4
-----------------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<http://www.jma-net.go.jp/hikone/jishin/jishin.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

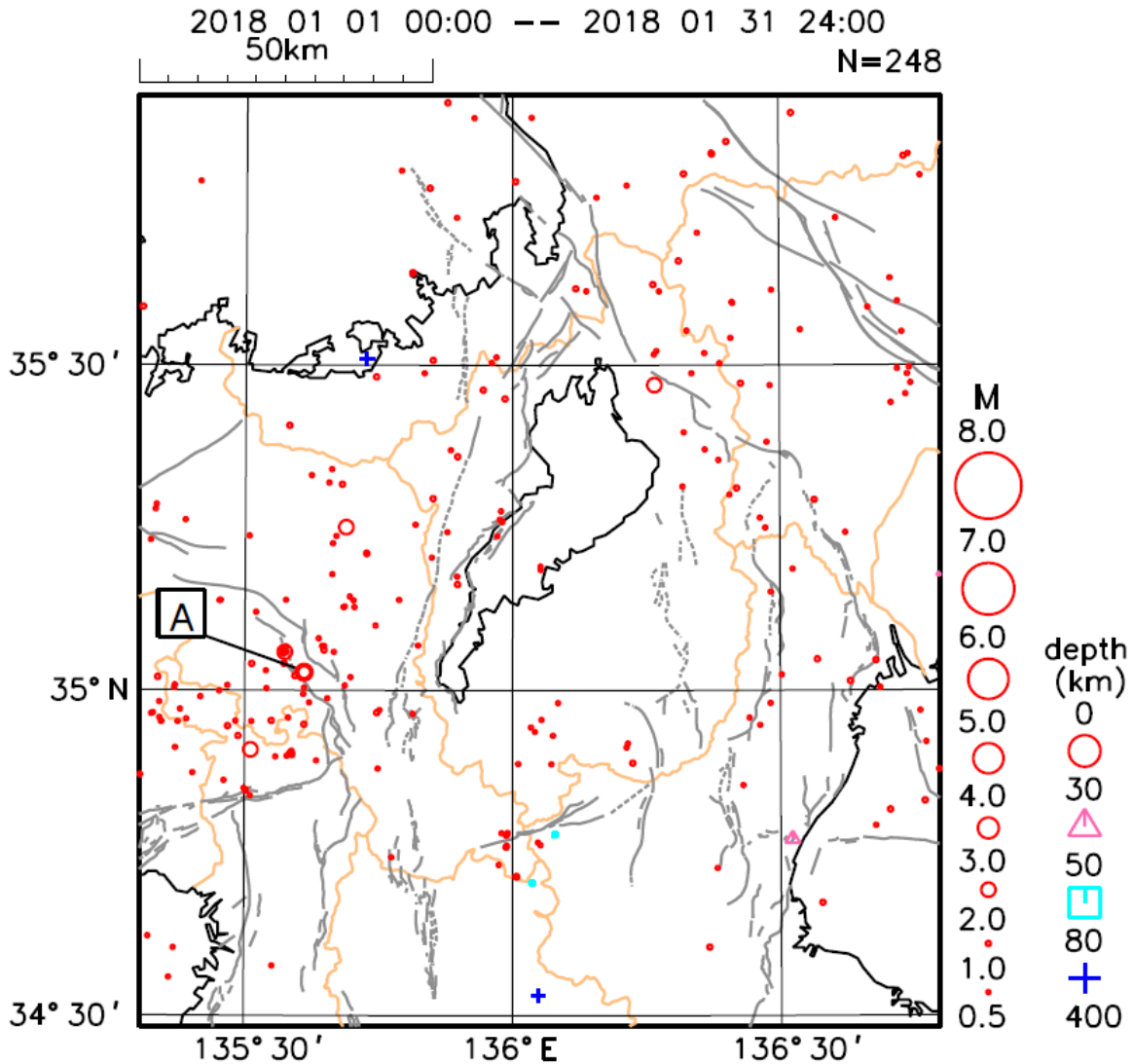
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<http://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(平成 30 年 1 月)

(1) 震央分布図



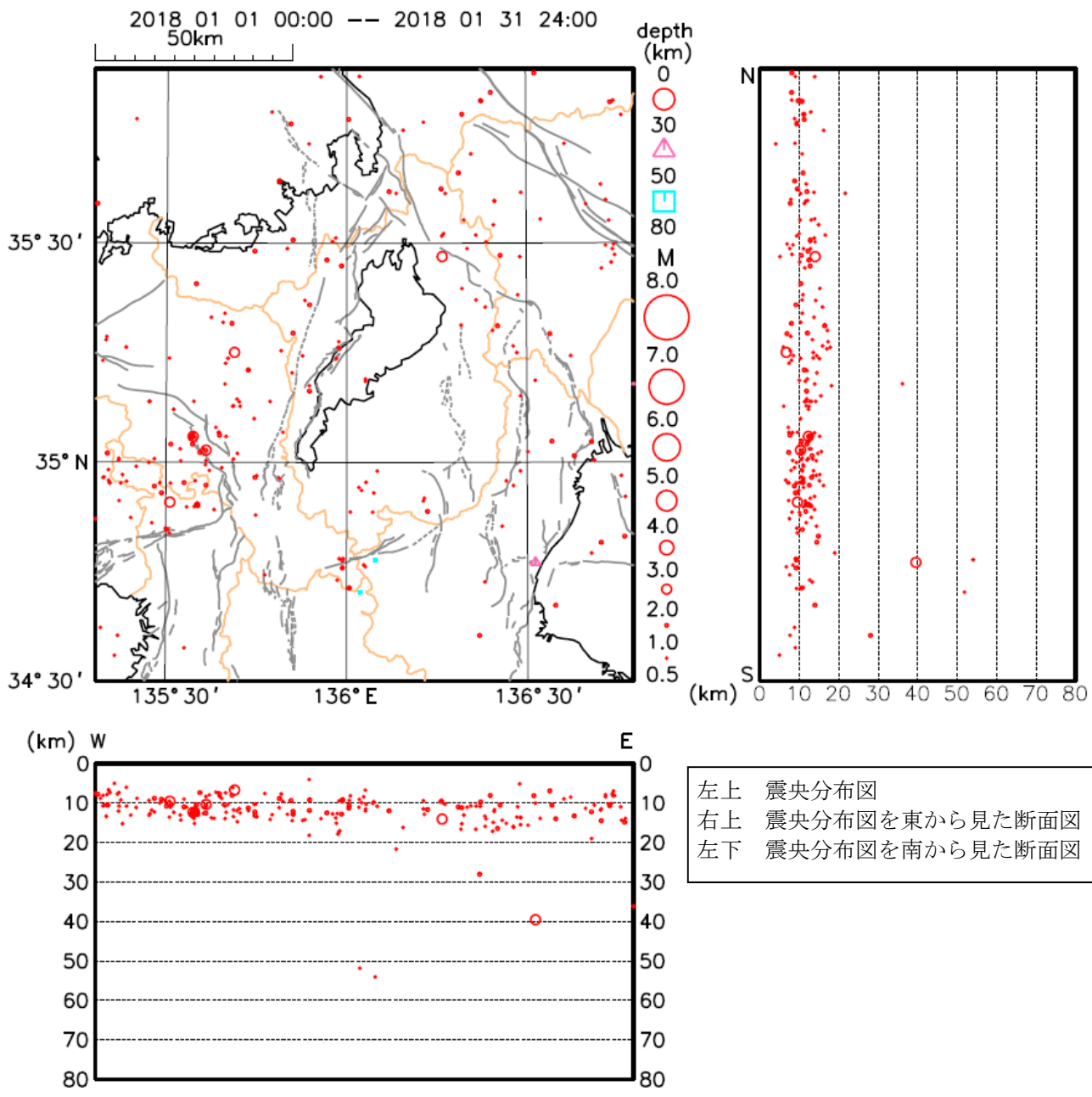
震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。
 シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模 (マグニチュード)」、形状により「震源の深さ (km)」を表現しています。マグニチュード (M) とシンボルマークの大小、震源の深さ (depth) とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。
 図中の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。
 滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・マグニチュード・最大震度を付記しています (最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません)。
 震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

(2) 概況

1月に震央分布図内で震源決定できたM2.0以上の地震は8回(前月16回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は0回(前月1回)でした。

図の範囲内で最も規模の大きい地震(図のA)は、23日14時59分の京都府南部の地震(M2.9)でしたが、滋賀県内で震度1以上は観測されませんでした。

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)

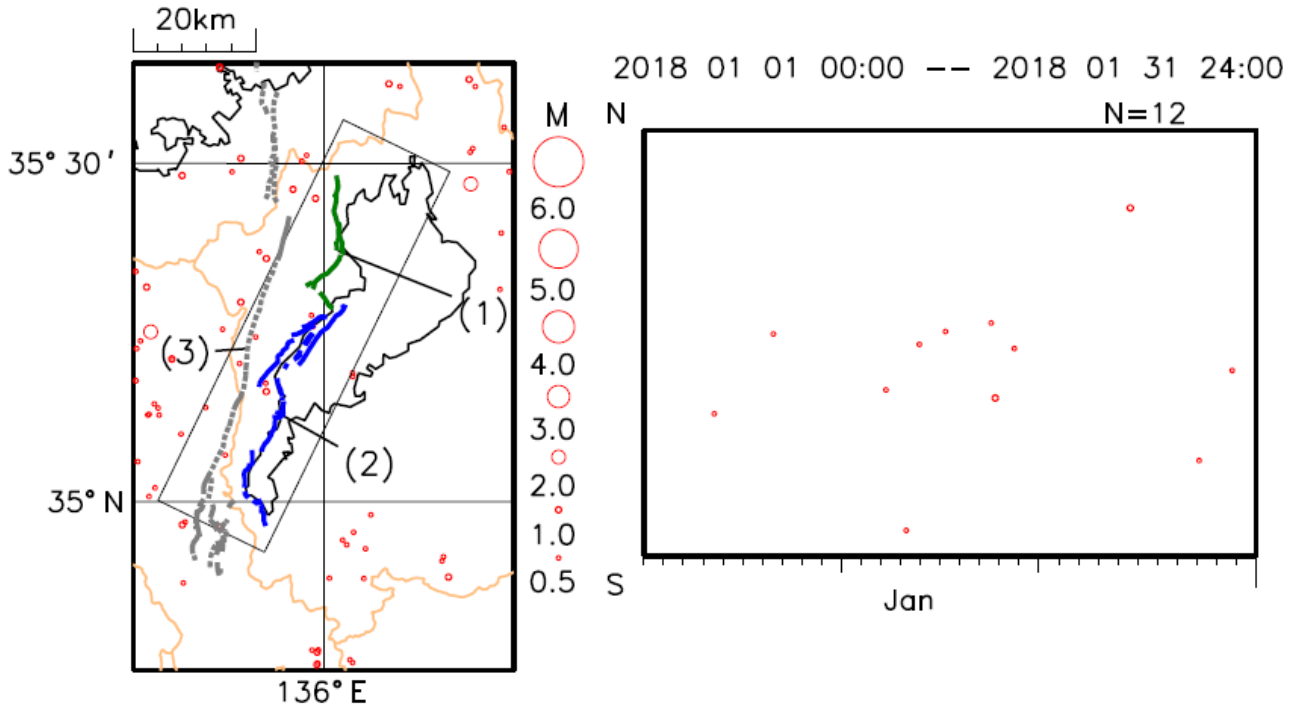


【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(平成 30 年 1 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。

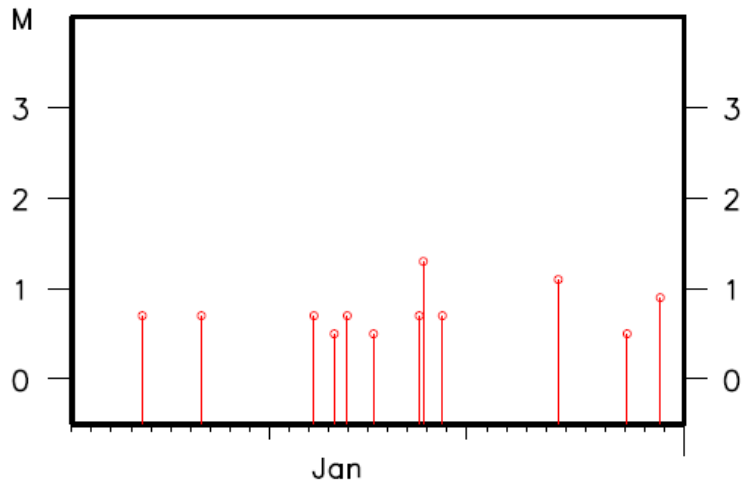
- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。



琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2017 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

1 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回(前月 1 回)でした。同領域内の地震で、震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

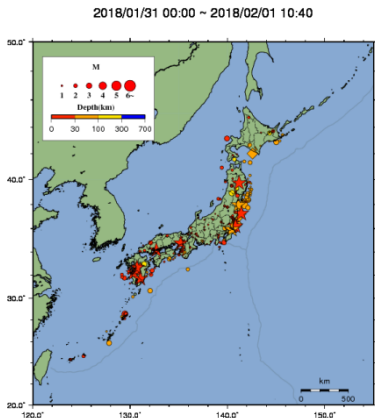
3 地震一口メモ

地震に関する観測・解析データの掲載について

気象庁ホームページでは、地震・津波に関する観測・解析データや、定期刊行物などの各種資料を掲載しています。

(詳細は気象庁ホームページ【<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/index.html>】に掲載)

最近の地震活動(速報値)



週間地震概況 (平成 30 年 1 月 19 日～1 月 25 日)

青森県東方沖の地震で最大震度4を観測

今期間中、全国で最大震度4を観測した地震が3回、最大震度3を観測した地震が1回発生しました。
 ① 1月24日19時51分に発生した青森県東方沖の地震(震3、深さ34km)により、北海道、青森県、岩手県で最大震度4を観測したほか、北海道から関東地方にかけて震度3～1を観測しました。この地震は、発震機構(震3 軸)が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生しました。

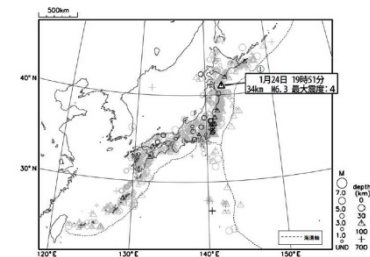
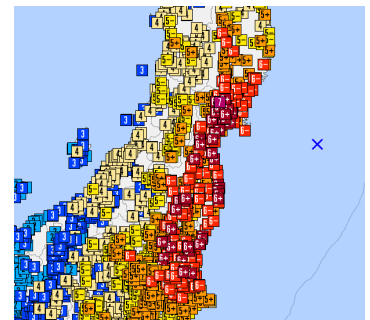
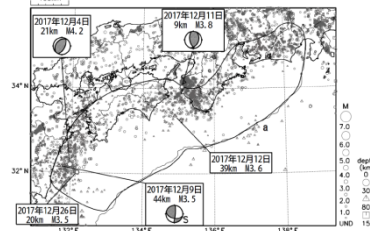


図1 震度1以上を観測した地震の震央分布図(期間中の地震を濃く、過去1年の地震を薄く表示)
 ※ 地震の震源要素(緯度、経度、深さ及びM)、震度、津波の高さ等は、再調査のあと修正することがあります。



南海トラフ沿いとその周辺の広域地震活動(2017年12月1日～2018年1月20日)



図中の赤字は、震源が日本列島の陸地内(陸地内)の地震で震度3以上を観測した地震、M1.0以上の地震、その他は、陸地内(陸地内)の地震以外の地震、震度3以上を観測した地震

最新の地震活動データ (速報)

○本日・昨日の地震活動状況 (10分毎更新) 前日から本日 (約30分前まで) の、地震活動状況を掲載しています。

【利用の留意事項】

表示している震源には、発破等の地震以外のものや、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがあります。

個々の震源の位置ではなく、震源の分布具合に着目して地震活動の把握にご利用下さい。

最近 (2日前までの1週間程度) の地震活動

○週間地震概況 (全国、各地方版) (毎週金曜日午後発行)

金曜から木曜の1週間に発生した地震の概要をとりまとめて掲載しています。

○震度データベース検索

1923年から2日前までの期間で、過去に震度1以上を観測した地震を県別・観測点別に検索できます。

○日々の震源リスト・震央分布図

2日前までの約3ヶ月間の地震の震源リストや震央分布図を日別に掲載しています。

各月の地震活動のまとめ

○地震・火山月報 (防災編) (翌月20日頃発行)

毎月の日本の地震活動・火山活動及び世界の主な地震や火山活動をとりまとめて掲載しています。毎年1月に発行される12月の月報には各年の地震活動・火山活動のまとめも掲載しています。

○地震月報 (カタログ編) (約3ヶ月後に発行)

震源、検測値、発震機構、震度、津波、ひずみのデータを掲載しています。

○南海トラフ地域とその周辺の地震・地殻活動の評価

毎月開催している南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会・判定会(定例)で評価した南海トラフ地域の地震活動や地殻変動の状況の調査結果等を掲載しています。